

# MCN REPORT

コロナ禍での本学の1年間の  
取り組みを振り返ります

Vol.46  
2021.2



学内で行われた実習の様子(1ページ)



総合防災訓練の様子(6ページ)

## 主な内容

新型コロナウイルス感染症に対する本学の1年間の取り組み	1・2
大学の出来事	3
地域交流センター 公開講座	4
連携協力協定病院紹介(三重県立こころの医療センター)	5
防災対策(総合防災訓練の実施)	6



# 新型コロナウイルス感染症に対する本学の1年間の取り組み

2020年4月7日の緊急事態宣言発出からこれまで実施してきた、本学の新型コロナウイルス感染症感染防止対策について紹介します。

## 本学で実施した新型コロナウイルス感染防止対策

### 講義

年度当初のオリエンテーション・ガイダンスを終えた後、4月7日から全学生の出校を停止し、オンライン講義等を実施しました。

その後、6月1日より、順次、学生の出校及び対面講義を再開しました。対面講義の再開に際し、学生の登校が通勤・通学の時間帯と極力重ならないよう時間割の再編成を行い、講義開始時刻を2限目(10時40分)からとしました。

また、マスクの常時着用を徹底し、グループワークやディスカッションを行う場合には、本学が学生に配布したフェイスシールドを活用するなどの感染対策を実施しました。

さらに、10月5日から始まった後期の科目についても、可能な限りオンライン講義を取り入れ、オンライン講義と対面講義を併用しながら、講義運営を進めています。



### 学生生活



学内の出入口や講義室前には消毒液を設置し、入室時や昼食の際には、手指消毒を徹底しています。

また、登校時の「体温・症状チェック表」への記入を必須とし、学生1人ひとりが、自分の体調について自己管理を行うよう注意を促すとともに、本学としても、学生の体調の変化にすぐに対応できるよう努めています。

このほかにも、講義室をはじめ廊下や出入口の換気を常時行うなど、大学全体で感染防止対策を講じています。

### 実習

実習については、学内で中心に行い、県内医療機関のご協力をいただきながら、可能な範囲において臨地実習も行いました。

学内の実習は、初めての試みでしたが、2年生の実習に4年生が模擬患者役として参加しサポートするなど、異学年での交流も取り入れながら実施しました。



### 国家試験対策



本学の卒業予定者全員が国家試験に合格し、それぞれが看護師・保健師・助産師としてスタートラインに立てるよう、万全のサポート体制で学生を支援しています。

例年、学内でやっている国家試験対策模試については、新型コロナウイルスの感染に配慮するため、県外をはじめ三重県内でも遠方から通学する学生には希望に応じて、自宅受験を可能とするとともに、模試を受験する際には密にならないよう対応しました。

### 就職支援

3・4年生を対象とした就職説明会は、WEB会議システムを使用して実施しました。23の医療機関・施設に参加いただき、病院の紹介や学生の質問に回答していただくなど、就職活動の貴重な機会となりました。

あわせて(株)マイナビから講師を迎え、3年生を対象に就活講座を実施しました。コロナ禍での就職活動をサポートできるよう、今後もさまざまな対策を行ってまいります。



### 大学院

県外からの通学生等への配慮から、オンライン講義を活用しました。また、研究の遅れなどに配慮し、前期の修士論文審査日程の変更や、臨時に中間審査を実施するなど、修士論文の受審の機会を確保しました。

本学は来年度以降においても、オンライン講義のさらなる活用や、修士論文の受審機会の確保に取り組めます。



## WEBオープンキャンパス

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、高校生を対象としたオープンキャンパスは、WEB会議システムと動画の配信を組み合わせ実施しました。

来学型のオープンキャンパスを行うことはできませんでしたが、インターネットを活用することにより、県外からも多数参加していただき安全に本学を知ってもらうことができました。



## 高大接続事業

当該事業は看護職を志す高校生が看護の仕事を理解し、高いモチベーションで進学・学修のうえ看護職者として活躍することを促すために実施しています。

高校生が看護職の魅力を知り、グループワークを通して、理想の看護師像、自らのなりたい姿を考える「1日みかんたい生」(8月)、特別選抜合格者が現役看護職者との交流を通じて看護職者として働くことについて理解を深める「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」(12月)を、オンラインで行いました。

初めての試みでしたが、積極的に質問する参加者も多数見受けられました。

## 附属図書館



附属図書館では、館内のテーブルや座席を減らしたり、アクリル板を設置したりして感染防止対策を行いました。

本学の附属図書館は学外の方も利用できるため、入館時には、入口での体温記入やマスクの着用、手指の消毒など、図書館利用者のご協力のもと感染対策を徹底しています。

## 大学生協

大学生協の食堂では、対面講義が再開された6月15日から営業を再開しました。

食堂内での食事は、感染防止対策の観点から中止し、予約制のテイクアウトのみとすることで、学生の安全に配慮するとともに、食品ロスを減らすことになりました。

今後も安全面・環境面に配慮しながら、学生の生活をサポートしていきます。



# 皆さんと共に走った1年でした



2月に行われた国家試験受験票配布説明会では、新型コロナウイルス感染症に対する試験当日の注意点などが説明されました。

100年に一度と言っても良いパンデミック(感染症の世界的流行)に遭遇し、3密を避けた生活に明け暮れた1年でした。この間感染防止策を取りながら、授業をやり切れたのは、学生とご家族、実習先の皆さまや教職員の工夫と努力の賜物です。

昨年度の終わりから新型コロナウイルス感染症という波が近づき、今年度の開始と同時に国の緊急事態宣言という大波がありました。本学ではリスク管理委員会が中心になって対応を考え、走り続けましたが、何をしても正解かどうかはわからない不安定さは、否めませんでした。当たり前だった学生生活ができない、当たり前だった実習に行けない、当たり前だった催しができないなど、さまざまな当たり前が崩れました。それでも大学は守られた場所で、社会全体では命、仕事と経済、医療、家族の在り様においても、当たり前が崩れ、まだ終わりは見えていません。

できれば避けたいこのパンデミックは、しかしながら大変貴重な体験です。この体験を糧に、今後の感染症との共生社会において私たちはどう暮らしていくかを、共に考えていきたいと思っています(本学紀要に新型コロナウイルス感染症に関わる体験を記録していますので、どうぞご覧ください)。

学長 菱沼典子

# 大学の出来事

## 三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会

12月20日(日)

「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」を開催しました。

この交流会は、特別選抜(学校推薦型選抜、地域推薦型選抜、指定校推薦型選抜、東紀州地域指定校推薦型選抜)による入学予定者40名が大学で学ぶことや看護職者としての将来像をイメージして、入学後に円滑な学修につなげることをねらいに実施しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止対策としてWEB会議システムを使用し実施しました。交流会では、三重の保健医療の現状や入学までの過ごし方について本学教員からの説明のあと、現場での看護師・保健師経験が豊かな本学教員の話がありました。

さらに、県内12の医療機関等の方に参加していただいた個別相談では、業務の現状や勤務形態、求められる看護師像などの生の声を聞かせていただきました。終了後のアンケートでは、「複数の病院の話聞くことで、比較できて良かった」等の意見をいただきました。



## 令和2年度卒業研究発表会

12月22日(火)

本学4年生99名による令和2年度卒業研究発表会を開催しました。卒業研究は、教員の指導の下、学生自らがテーマに沿って研究計画を立案し、データを集めてまとめ上げる、いわば本学での学びの集大成です。

今年は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、発表する教室を分け、換気を十分に行いながら発表を行いました。

各教室では同級生や教職員、来年度卒業研究を履修する3年生の聴講者を前に、4年生が緊張した面持ちで自己の研究結果を発表しました。

恩師や友人たちに向けた発表は、かけがえのない貴重な経験になったことでしょう。本学で4年間をかけて培った学びと研究は、それぞれの現場で「実践」へとつながっていきます。



## 令和2年度後期修士論文発表会

1月20日(水)

令和2年度後期大学院看護学研究科修士論文発表会を開催しました。

修士論文、特定課題の研究結果の発表は、学位授与のための審査過程の一部でもあり、研究能力や研究への姿勢を問われます。

修士論文コース7名の学生は、それぞれの教育研究領域における研究成果を発表し、質疑応答に臨みました。

引き続き、修士論文審査と研究科委員会での審議を経て学位取得となります。学位取得後は、高度な専門知識と実践能力を備えた専門的職業人として、看護学の探究と発展に寄与することが期待されます。



## 国家試験受験票配付説明会

2月2日(火)

「国家試験受験票配布説明会」を実施しました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、WEB会議システムを利用した遠隔配信を同時に実施し、学生自身が会場参加またはオンライン参加を選択できるよう配慮し、10名の学生がオンラインで参加しました。

「これまで勉強してきた成果を出すことができるよう、最後まで諦めず自信を持って、試験に取り組んでください。」という菱沼学長からの激励の言葉を、学生は緊張した面持ちで耳を傾けていました。

2月11日(木)(助産師)、2月13日(土)(保健師)、2月14日(日)(看護師)に行われた国家試験では、本学においては、看護師、保健師ともに99名、助産師については10名の学生が国家試験に臨みました。新型コロナウイルス感染対策により、例年とは異なる対応を求められるため、学生の不安が大きい状況ではありますが、本学教職員が一丸となって、最後まで学生をサポートしていきます。



## 地域交流センター 公開講座

### Withコロナ時代に、私たちにできる身近な感染対策のヒント



1月23日(土)に地域交流センター令和2年度公開講座を開催しました。

今回の公開講座は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じ、一般来場者32名、オンライン受講32名(8施設)に参加していただき開催しました。

当日は浜松医科大学医学部看護学科臨床看護学講座成人看護学教授の脇坂浩先生をお招きし「Withコロナ時代に、私たちにできる身近な感染対策のヒント」をテーマにご講演いただきました。

講演では、新型コロナウイルス感染症の症状や感染期間などの説明をいただいた後、3種類の感染経路(接触、飛沫、エアロゾル)のお話や、感染予防のポイントについてお話いただきました。

受講者の皆さんからは、「社会問題になっている新型コロナの講座は大変役立った」「感染について基本的な内容から自宅でも医療機関でもできる感染対策について詳しくわかった」「WEB研修で受けましたが資料もあり講義もわかりやすくてよかった」等の意見をいただきました。



# 連携協力協定病院紹介

## 連携協力協定病院のご紹介 ～三重県立こころの医療センター～

### 人と人とのつながりを大切に“思いやりのある看護”“心も身体も支える看護”をめざします

当院は2020年に開設70周年の節目を迎えました。三重県の精神科の基幹病院として中核的な役割を担い、24時間体制で救急を受け入れています。入院環境は、救急・急性期、精神・療養、認知症、アルコール依存症と専門分化しており、多様なニーズに対応し患者さんが治療に専念できるよう環境を整備しています。心の問題を抱える患者さんやご家族に寄り添い、精神疾患があっても地域でその人らしく生活できるよう、多職種協働による専門性を活かしつつ、退院後の生活を見据えた看護を展開しています。

精神科看護では、目に見えない患者さんの微妙な変化を読み取る必要があります。治療に対する思いを理解し、安心感や信頼関係を高めることも大切です。患者さんと深く関わることでコミュニケーション力が養え、治療の回復過程に携われるなどやりがいを得られます。

看護師の育成は、キャリアラダー制度で運用しています。OFF-JTのステップ研修では看護師も講師を務め、共に学ぶ姿勢を築き個々の成長にも繋げます。新人には、相談しやすい環境を整え、プリセプターシップで看護実践を支援します。ぜひ、病院見学や就職説明会などで、当院の雰囲気や看護を知っていただきたいと思ひます。

三重県立看護大学とは、平成25年2月に連携協力協定を締結し、臨地実習の場として活用していただいています。今後も連携を深め、質の高い看護師の育成に取り組むたいと思ひます。

(看護部長 村田 たまみ)



三重県立こころの医療センター



### 病院情報

#### 三重県立こころの医療センター

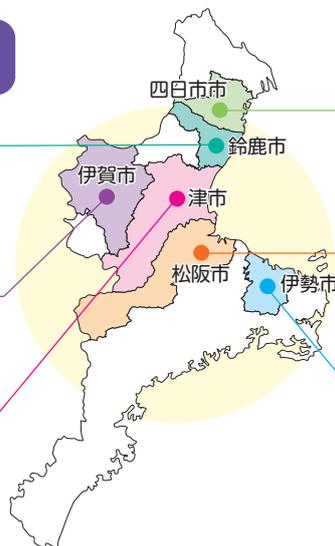
(昭和25年3月25日高茶屋病院として開設) (平成11年11月名称変更)

- ❖ 病床数：精神科 348床
- ❖ 診療科目：精神科 内科 歯科 脳神経内科 (計4科)
- ❖ 職員数：261名(うち看護師161名) (令和3年2月1日現在)

## 連携協力協定病院一覧

### 県内12病院

- 三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿中央総合病院
- 社会医療法人畿内会 岡波総合病院
- 伊賀市立上野総合市民病院
- 三重県立こころの医療センター
- 独立行政法人国立病院機構 三重病院
- 三重県立一志病院
- 地方独立行政法人 三重県立総合医療センター
- 松阪市民病院
- 社会福祉法人恩賜財団 済生会松阪総合病院
- 三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院
- 日本赤十字社 伊勢赤十字病院
- 市立伊勢総合病院



(令和3年2月末日現在)

## 総合防災訓練の実施

1月21日(木)の14時20分ごろ、南海トラフを震源として、津市で震度6強の大規模地震が発生した想定で、総合防災訓練を実施しました。

学内全館に緊急地震速報の試験放送が流れると、講義中の学生と教員は講義を中断し机の下などに身を隠しました。

その後、避難場所(中庭)の安全が確認されたことから、館内放送を通じて避難場所へ避難するように伝えられ、避難後は避難者数の報告など避難状況の把握を行いました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、講義等に影響のない教職員のみでの避難となりました。避難訓練後に、災害対策本部長である菱沼学長が「大学で被災した時の自身の役割について知ることが大切であり、それぞれ役割を認識したうえで学生や地域の安全確保に努めてもらいたい」と講評を述べました。

また避難訓練後には引き続き初動対応訓練を行い、災害対策本部の設置や情報収集(安否確認、施設の安全確認等)を実施するとともに、大規模地震災害対策マニュアルの検証結果について報告を行いました。

今後は、コロナ禍での自然災害を想定しながら、非常時の対応をスムーズに行えるよう大学全体で取り組みます。



緊急地震速報を聞き机の下に隠れる学生



学生の避難状況等の確認を行う様子



災害対策本部会議の様子

## さらなる発展と人材育成の充実に向けて

### ～学生の修学支援のための基金への寄附のお願い～

本学では、開学20周年(平成29年)を契機として学生の修学支援に活用するため、皆さまからの寄附を原資とする「**公立大学法人三重県立看護大学修学支援基金**」を創設しました。

この基金は「**みかん大進学支援給付金**」の財源として、三重県の保健・医療に貢献する意欲があり、本学への進学の目的及び意志が明確であるにもかかわらず、経済的理由により進学が困難な人への入学時の給付金に活用しています。

さらに、今年度、新型コロナウイルス感染症により経済的に困窮している学生を支援するため、この基金を充当して、「**生活支援給付金**」(休学者を除く全学部生を対象に大学生協で書籍の購入や大学食堂に活用できる資金を一律給付)、「**緊急支援一時貸付金**」(一時的な困窮者への無利子貸付金)を臨時的に創設、運用しました。

#### ■皆さまへのお願い■

基金創設時には多くの皆さまからご厚志を賜りましたが、継続的かつ機動的に、安定した学生への支援を可能とするため、引き続き、皆さまからご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

#### ■寄附にあたってのお得なお知らせ■

本寄附金は、総務大臣及び文部科学大臣の承認を得て、所得税の税額控除の対象となっています。詳細は事務局にお問い合わせください。(対象:平成31年1月～令和5年12月寄附分)

#### ■令和3年2月末の基金の状況■

基金残高 4,721,000円  
寄附者数(累計) 個人 66人  
法人・組織 14団体

#### お問い合わせ

寄附に関すること:事務局財務・運営課  
給付金に関すること:事務局教務学生課



公立大学法人  
**三重県立看護大学**

〒514-0116  
三重県津市夢が丘一丁目1番地1  
TEL 059-233-5600(代)  
FAX 059-233-5666  
<http://www.mcn.ac.jp/>



**本学マスコットキャラクター「みかんちゃん」**

三重県立看護大学の略「三看大（みかんだい）」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



**学章の由来**

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



**「大学基準協会」の定める「大学基準」に「適合」と認定されています。**

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。

広告



財)日本医療機能評価機構認定病院  
地域医療支援病院



女性が働きやすい  
医療機関  
(三重県認証)



社会医療法人 畿内会  
**岡波総合病院**  
Okanami General Hospital

急性期から高齢者介護や在宅にいたるまで  
まごころのこもったサービスの提供に取り組んでいます



〒518-0842 三重県伊賀市上野桑町1734番地 TEL:0595-21-3135

広告

私たちと一緒に“七栗記念病院”で働きませんか

2022年卒 看護師募集中



緩和ケア

リハビリテーション看護

訪問看護



**藤田医科大学 七栗記念病院**  
FUJITA HEALTH UNIVERSITY NANAKURI MEMORIAL HOSPITAL

〒514-1295 三重県津市大鳥町424-1  
TEL 059-252-1555 FAX 059-252-1383



七栗 看護師

